

科目「介護過程」におけるアセスメントの可視化

～Teams と Microsoft Whiteboard を使用した情報の解釈・関連付け・統合化～

1 はじめに

介護過程におけるアセスメントでは、他科目で学んだ知識と技術、観察力や判断力、サービス利用者の状況、心理やその変化など多様な情報を基に生活課題を導き出し、利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」を目指した介護計画の立案、実施へとつなげていく。

本校の福祉科2年生の介護過程では、11月に行う10日間の介護実習で、利用者の観察、コミュニケーション、記録類の拝読を通して担当利用者の情報を収集し、実習後の授業でその後の過程を進めていく。2年生は、利用者の情報を扱うことは初めてとなる。6月に福祉科3年生が同じく介護実習でアセスメントをした結果、利用者の思いや個性を考慮した生活課題の設定が不十分であった。その原因は、情報収集シートには情報が書き連ねられており、そこから利用者の全体像の把握や情報の関連付けをすることが難しいからであると考えた。

そこで、本研究ではアセスメントにおいて、情報を可視化することで多様な情報を扱いやすくすることを目標とし、Teams 内での Whiteboard の活用と共同作業を行うこととした。

2 単元の概要

- (1) 科目名 介護過程
- (2) 対象生徒 福祉科2年生（24名）
- (3) 使用教材 教科書「介護過程」（実教出版）、介護福祉士養成講座「介護過程」（中央法規出版）、介護過程シート、生徒タブレット（Teams、Whiteboard）
- (4) 単元名 第3章 介護過程の実践的展開

3 単元の目標

- (1) アセスメントと介護計画の立案の方法を理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
【知識・技術】
- (2) アセスメントにおける課題を発見し、それを生活課題の設定と具体的な介護計画を立案することで、科学的な根拠に基づいて解決する。
【思考力・判断力・表現力等】
- (3) アセスメントから介護計画の立案までの過程について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。
【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
アセスメントと介護計画の立案の方法を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	アセスメントにおける課題を発見し、それを生活課題の設定と具体的な介護計画を立案することで、科学的な根拠に基づいて解決している。	アセスメントから介護計画の立案までの過程について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（10 時間）

第3章 介護過程の実践的展開	
第1節 介護実習におけるアセスメント（情報収集）	介護実習 10 日間に含む
第2節 アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）	（4 時間）
第3節 介護計画の立案	（3 時間）
第4節 介護過程の実践発表	（3 時間）

指導計画 ※○印は評定のために用いるもの。

時間	学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第3章 介護過程の実践的展開 【ねらい】 利用者の個別性を尊重した介護過程を展開することができる。				
介護実習期間	・介護実習で「直接的な情報収集」と「間接的な情報収集」を行い、情報収集シートに記入する。	思	○	・意図的な情報収集ができるようコミュニケーション技術を用いて情報収集シートに記入できる。 情報収集シート
1 ～ 4	・Whiteboardを使用して、情報の解釈・関連付け・統合化を行い、生活課題を明確にする。	知 思	○ ○	・情報の解釈・関連付け・統合化の方法について理解し、適切に記録できている。 アセスメントシート ・必要な情報を結び付けて生活課題を明確化し、表現することができる。 Whiteboard アセスメントシート
5 ～ 7	・介護計画を二つの視点で立案する。	知 主	○ ○	・評価の指標が具体的に示された介護計画が立案できている。 個別支援計画 ・介護計画について助言し合うことで、客観的で共有できる介護計画を立案できるように、主体的かつ協働的に学び合おうとしている。 個別支援計画
8 ～ 10	・アセスメント、介護計画の立案を発表する。	主	○	・発表を聞いて、アセスメントと計画の立案を通して各自の課題点を明確にする。 発表用授業プリント

6 成果と課題

(1) 実践の成果

生活課題を明確にするために、次のように情報の解釈・関連付け・統合化を行った。

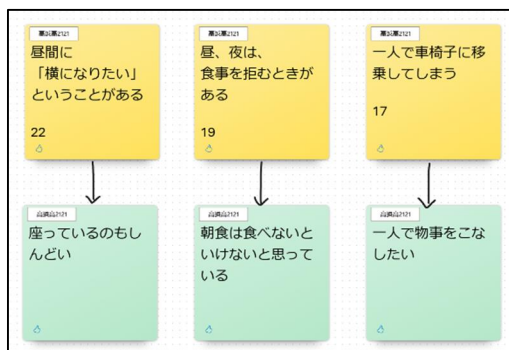
- ① グループ内での Whiteboard の作成
- ② 情報の解釈・関連付け・統合化
- ③ Whiteboard の共有
- ④ 生活課題の明確化

②の「情報の解釈・関連付け・統合化」では、アセスメントの視点（自立・安全・快適）を決め、Whiteboard に関連する情報を黄色の付箋で書き出した。次に情報の解釈を緑の付箋で書き出すように指示した（資料1）。③の「Whiteboard の共有」では、グループ内で他のメンバーの Whiteboard を確認し、疑問点や別の解釈の可能性を赤の付箋で書き出して貼った。また、リアクション機能も使用した（資料2）。

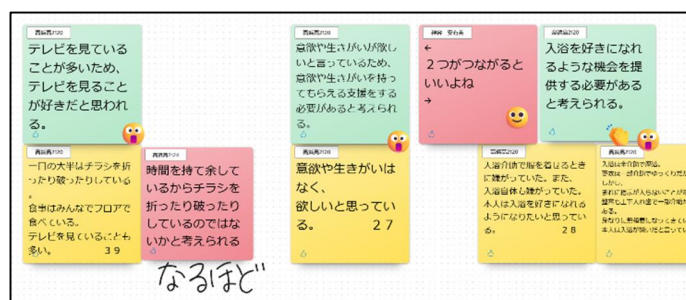


以上のような手だてを講じた結果、次のような成果が見られた。

アセスメントシートから関連する情報を書き出した際、ほとんどの生徒が 10 以上の情報を書き出しており、扱う情報量は文章で記述していた時よりも明らかに増え、付箋にある情報を一つずつ丁寧に解釈することができた。アセスメントを可視化し、本来必要とする情報を活用することは、おおむね達成できたと考える。



【資料1 必要な情報と解釈を付箋で配置した Whiteboard の一部】



【資料2 必要な情報と解釈を付箋で配置した Whiteboard の一部】

(2) 課題・まとめ

ア ICT機器の活用について

今回、アセスメントを可視化できるツールとして、他のシンキングツールやフローチャート作図ツールを検討した結果、本校で使用でき、生徒も扱えるものとして Whiteboard を使用することにした。

しかし、教員も不慣れであり、生徒も初めて使用するため、色や使用の範囲を限定して使い始めた。アセスメントを終了した生徒の Whiteboard にはさまざまな工夫が見られ、今後は画像の挿入や共同作業を増やすことなどでより多くのアイデアを出したり思考を深めたりすることができるのではないかと考えている。

イ 介護過程シートへの記載

本来、介護過程シートにはアセスメントしたことを文章で記述している。今回、Whiteboard で表現したものを文章に戻すことが適切であるが、その過程で意図が変わってしまったり、取捨選択しすぎてしまったりする可能性がある。

単元の最初に生徒には、シートに手書きで書いても、タブレットに入力をして各自で選択できるように指示をした。しかし、多くの生徒がタブレット入力を選択し、どの生徒も一生懸命な様子であった。新しいツールを用いたことで生徒の意欲が高まり、成果にも表れた。この取組は今後も継続していくが、私自身も I C T の活用について研鑽を積んでいきたい。